

Topics

みなみせんじゅとしょうかん  
南千住図書館・  
あらかわ  
荒川ふるさと文化館  
たなばた  
七夕まつり

☆七夕の歴史を知ろう&  
七夕飾り作りを体験しよう☆  
七夕の歴史や由来についてのパネル  
を展示します。期間中、七夕飾り作り  
も行います。  
期間 6月28日(金)~7月10日(水)  
会場 荒川ふるさと文化館  
1階エントランス  
費用 無料

☆七夕まつり☆  
七夕にまつわるお話や、パネルシア  
ターを行います。短冊に願い事を書い  
て笹に飾ります。  
日時 7月3日(水)  
午後3時30分~4時30分  
会場 荒川ふるさと文化館  
地下1階視聴覚室  
対象 小学生以下50人(当日の先着  
順、未就学児は保護者同伴)  
費用 無料  
申込方法 直接会場へお越しください  
問合せ 南千住図書館☎(3807)9221  
荒川ふるさと文化館☎(3807)9234



第11回  
あらかわバラの市を開催

5月18日、第11回あらかわバラの  
市が開催されました。今年は70種類  
を超える品種、4100鉢のバラを用意。  
晴天にも恵まれ、訪れた多くの人達  
は、色とりどりのバラの中からお気に  
入りの一鉢を選んでいました。

▶あいさつをす  
る西川区長



▼お目当てのバ  
ラを求めてに  
ぎわう様子



なりたい自分になる!  
「消防士」  
になるために!

しやうらいの  
やめ  
将来の夢  
インタビュー  
第4回

だいがくそつぎょうご  
大学卒業後、一度は民間の企業に就職し  
たものの改めて、消防士を目指した村上哲  
郎さん。そんな村上さんに、消防士になっ  
た理由を聞きました。

いつごろから消防士になりたいと思いましたか?

20代半ばになって街を走る消防車を見たとき、直感的に消  
防士になろうと思いました。大学生のとき、阪神淡路大震災で  
被災した影響があったからかもしれません。

消防士になるために、まず何をしましたか?

本当に人生をかけてやりたい仕事なのかを見極めるために、  
東京消防庁についてとことん調べました。世界でも有数の高度  
な技術を持った特別救助隊や水難救助隊があることや歴史・創  
設の理念を知って、一生の仕事にしたいと強く思いました。

消防士になって嬉しかったことはありますか?

やはり火事や水難事故で救助した人や、震災などで応援に行  
った先の消防士さんから感謝の手紙をいただいたときですね。  
感動して泣くほど嬉しかったです。

消防士になりたい小・中学生にアドバイスはありますか?

どんな仕事にもそれぞれの仕事に特有の知識や技術が求めら  
れます。特に人命救助の現場では、いろんな知識や経験を持つ  
人たちが集まって協力しなければ、人は助けられません。人を  
救う仕事を目指すなら、学校での勉強をしっかりとって、それ  
を基礎に知識と技術を積み上げていくしかありません。人を救  
うことに近道はないので、一步一步を大切に頑張ってください。



応援message  
訓練に  
終わり無し!  
村上哲郎  
「この仕事は毎日が勉強と  
訓練です。コツコツと目標  
に向かって努力することがと  
ても大切だと思います」と  
村上さん。

あらかわ  
今昔ものがたり  
日 [ばしょうくんと旅する奥の細道]



那須野の少女・かさねちゃんとの出会い

3月27日に旅立った芭蕉さんは、日光道中  
を北上し、4月1日(今のカレンダーで5月20  
日)、新緑に包まれた下野国の日光(栃木県日光  
市)に到着。江戸幕府初代将軍・徳川家康さん  
が眠る絢爛豪華な東照宮をお参りした。その時  
の感動を「あらたうと青葉若葉の日の光」の句に  
込めたんだって。將軍家のご威光に感動した芭  
蕉さんと曾良さんは、翌4月2日、那須地方に  
向かって軽やかに歩き出した。今回は、那須野  
(大田原市)のお話だよ。  
那須の黒羽と云所に知る人あれば 目指すは芭  
蕉さんが訪問を楽しみにしている城下町・黒  
羽。そこに弟子の桃雪・翠桃兄弟が住んでいた  
んだ。栃木県の中心を流れる鬼怒川を渡る頃  
にはすごい土砂降りになり、玉生(塩谷町)という  
所に一泊したんだって。翌朝、晴れたものの街  
道はぬかるんで、歩きにくい。那須野の大平原  
が広がり、足は泥だらけだし、芭蕉さんはヘト  
ヘトになってしまったんだ。  
そんな時に目の前に現れたのが、のんびり草

を食べている一頭の馬! 近くにいた農夫に貸  
してもらえないかとお願いすると、農夫はこん  
なことを言った。「この辺りの道は複雑で、道  
に迷ってしまうだろうから、馬を貸してあげよ  
う。馬の赴くままに進み、止まったところで馬  
を返してくればよいからね。」  
名を「かさね」と云 芭蕉さんは馬に跨り、曾良  
さんがそれに従い黒羽に向かって進みだすと、  
二人の子どもがとことこ付いて来た。一人は女  
の子。名前を尋ねると「かさね」と答えた。聞き  
なれない優しい名前だったので、  
かさねとは八重撫子の名なるべし  
と曾良さんが一句詠んだ。昔から小さな子ども  
を花の撫子に例えてきた。この子の名は「かさ  
ね」だから、花びらが重なっている八重撫子の  
ことだろうね。かさねちゃんたちは、奥の細道  
の旅の中で唯一登場する子ども。道に迷いそ  
うで、心細かった芭蕉さん  
にとって、忘れられな  
い、心温まる出会いだっ  
たんだね。

